

子どもへの取り組み

安全ですこやかな 成長を願って

子どもたちは未来の社会を築き、発展させていく存在です。

子どもサブコミティは、そんな「社会の宝」である子どもたちが、安全に、そして健全に成長していけるように、乳幼児から青少年まで幅広い範囲の取り組みを進めています。

0歳児の死亡例では4.9%、1～4歳児の死亡例では16.4%が誤飲による窒息などの「不慮の事故」によるものです（厚生労働省平成21年人口動態統計年報）。

不慮の事故は先天的な疾患や病気とは異なり、その大半は周囲の大人が注意を向けることで防ぐことができるといわれています。

「保育士による家庭内での乳幼児の事故予防啓発事業」、「子

どもの事故防止セミナー」などは、子どもを取り巻く保護者たちが事故予防の知識を得ることで子どもの命を救うことを最終的な目的としています。

成長しても依然として子どもたちは周囲の環境に影響を受けやすい存在です。とくに思春期の子どもたちはさまざまな誘惑に迷い、家族や友人との人間関係に悩みがちなもの。ますます複雑化する現代社会にあっては、子どもたち自身が自分の力で考え、さまざまな問題を乗り越えていく力を身につけていく必要があります。

「思春期のライフスキル教育」プログラムは、そのために子どもたち、および、教育者たちを育成していく事業です。



子どもサブコミティのミーティング風景。ホワイトボードの前に立っているのがリーダーの内田さん。

今の困難を乗り越え、 未来の可能性を広げたい

子どもサブコミティ リーダー
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) メディカル カンパニー
内田 謙二

私たちは、一人ひとりの子どもが健康でこころ豊かに育ち、希望に満ちた未来へ大きく羽ばたくことができるような環境づくりを目指しています。より多くの子どもにJ&Jの支援が届けられるよう、事故防止や生きる力を養う知識とノウハウを持つ指導者やインストラクターの育成に重点を置いています。

また、今後は「今困っている子どもたちをどう支援するか」という観点の活動にも取り組んでいきたいと考えています。

さまざまな困難に直面している子どもたちを支え、子どもたちの未来の可能性を今よりもっと広げたい。そのために必要とされていることは何なのか。それを考え、発見し、そして実践していきます。

家庭内での不幸な事故を未然に防ぐ 保育士による家庭内での 乳幼児の事故予防啓発事業

社会福祉法人 日本保育協会
www.nippo.or.jp/



子どもが幼くして亡くなる原因として上位にあるのが「不慮の事故」です。これは保護者など周囲の大人の意識しだいで未然に防ぐことが可能といわれています。このプログラムでは、1人でも多くの保護者が乳幼児の事故予防に関する正しい知識を得られるように、保護者と日々関わる保育士を対象に事故予防指導のスキルや知識を学ぶセミナーを実施しています。

事故予防と応急手当の普及啓発

子どもの事故防止セミナー

公益財団法人 東京防災救急協会
www.teate.jp/



東京防災救急協会は、地域の要望に応じたセミナーを開いてきました。現在は、保育士、幼稚園教諭など子供に関する職種の方に向けに事故防止に関する知識および応急手当の実技を学ぶ「乳幼児事故防止セミナー」と小学校低学年以下の子どもと保護者を対象に事故防止の知識と応急手当の実技を学ぶ「親子応急手当大会」を実施しています。

自分で問題を乗り越えられる力を子どもたちに

ライオンズクエスト 「思春期のライフスキル教育」プログラム

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
www.jiyd.org/



青少年が人間関係やさまざまな誘惑など日常で体験する困難を乗り越えるために、コミュニケーションの取り方、感情のコントロールの仕方などのライフスキルを学び、勇気、正直、自分を律するなど9つの価値観を身につけ、自尊心の高い人間として成長していくためのプログラムです。

研修を受けた教員により、学校現場でライフスキルの授業が実施されます。青少年育成支援フォーラムは、ライフスキル教育プログラム普及に向けたカリキュラムや教材の開発、教師など教育関係者を対象としたワークショップを開催しています。

▶ 支援の現場から ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」プログラム

地域全体で子どもの成長を 支える社会へ

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
馬淵 英晃さん

家族や友人との関係、酒やたばこ、ドラッグの誘惑など、思春期の子どもたちは多くの困難に直面します。私たち青少年育成支援フォーラムは、それらを自分で乗り越えていく力を身につけてもらうために「思春期のライフスキル教育」プログラムの普及・推進活動を行っています。

プログラムに参加した生徒からは、「相手の気持ちを考えて話すようになった」「クラスの雰囲気が明るくなった」といった声が聞かれています。

また、ワークショップに参加して授業に取り入れた教師からは「指導方法の引き出しが増えた」という声が聞かれ、自信を持って生徒に接することにつながっているようです。

私たちは保護者への理解の促進や地域団体への働きかけも行っています。学校や家族だけでなく、地域全体で子どもの成長を支える社会をつくるのが目標です。



自分自身の成長を感じはじめた 子どもたち

栃木県黒磯市立 黒磯北中学校
川崎 由香さん

当校では全学年の全クラスで「ライフスキル教育」プログラムを授業に取り入れています。私の担当クラスでは、これまで2年間弱、継続してきました。すでに大きな変化が見られますし、続けていけば成果はより大きなものになるでしょう。

ライフスキル教育を導入した第一の理由は「自尊心を高めたい」というものでした。子どもたちは大人が思っている以上に自分に自信を持っていません。普段から人と接することに恐怖や抵抗を感じている生徒が多いのです。しかし、このプログラムを体験した後のアンケートを見ると皆が少しずつ自信を持ち始めているのを感じます。人との接し方、ほめ方をプログラムを通して学び、学んだことを実践することで自分の成長が感じられ、自信を深めることができるのです。

また、子どもたちだけでなく、このプログラムは私たち教師を成長させる機会にもなっていることを実感しています。

